

(様式第8号)

事業報告書 (令和 2 年度)

事業名 大人の社会参画の機会を拡げ、子どもの「思い出格差」を解決するプロジェクト

団体名 特定非営利活動法人チャリティーサンタ 岡山支部 担当者名 河津 泉

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

課題(子どもの貧困)について学び、解決するための行動を促すための活動を実施した。
主に、学びの機会として、ボランティアには研修を受講してもらい、ボランティア活動の意義や意味について主に市内の家庭の状況について理解をしてもらうことにつとめた。この機会を通じて、地域社会の課題の発見やボランティア実施のクオリティの担保を行うこととした。
学びの機会のあと、実際のアウトプットの場として岡山市内の家庭に対してのボランティア活動を実施することで、学びの定着化を図った。(活動の種類:サンタクロースの訪問活動、絵本の選書、子どものためのカードづくりなど)

<サンタクロース訪問活動>

困窮世帯から届いた声(応募動機)などを共有しながら、現在の日本における子どもの貧困の状況や、関わる大人を増やすことの必要性を共有し、実際の家庭をイメージしてのボランティア活動の準備に務めた。

<アオンライン研修会> zoomにて実施

11月2日(月) 19:30~21:00 1名

11月16日(月) 19:30~21:00 4名

11月22日(日) 13:30~15:00 3名

11月30日(月) 19:30~21:00 2名

12月3日(木) 19:30~21:00 7名

12月6日(日) 13:30~15:00 4名

<対面研修会>

11月7日(土) 15:00~16:30 1名 エルヴェスペース

11月14日(土) 15:00~16:30 2名 エルヴェスペース

11月21日(土) 15:00~16:30 3名 エルヴェスペース

11月28日(土) 15:00~16:30 8名 ハッシュタグ

12月5日(土) 15:00~16:30 13名 ハッシュタグ

12月12日(土) 17:00~18:30 12名 ハッシュタグ

(クリスマスイブのボランティア参加者数:)

<絵本の選書会>

寄付の仕組みや困窮家庭の状況などを共有したあと、困窮家庭の子どもたちのためのプレゼントとして、寄付で集めた新品の絵本・児童書を選ぶ作業を行った。

11月10日 3名

11月17日 5名

11月28日 4名

12月5日 1名

12月12日 6名

※場所はいずれもハッシュタグ

<カード作成会>

困窮家庭の子どもたちの支援やボランティアに関わる意味を高校生たちに講座形式で実施したあと、家庭に届けるカードや手紙の作成を行った。

10月15日 10名

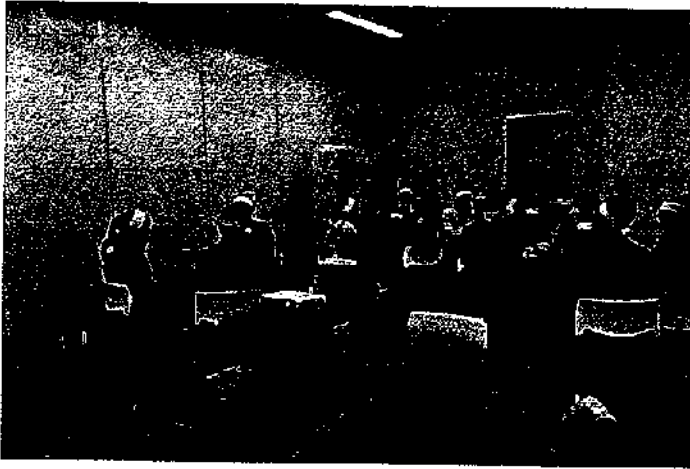
10月21日 15名

※場所はいずれも後楽館高等学校教室

| |
|---|
| <p>2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ</p> <p>実際の受益者（困窮世帯）の声を伝え（個人が特定されないように配慮しながら）その家庭に対して何をできるかを考えてもらえるようにプログラムづくりを行った。 学ぶだけでなく、実際のアクション（ボランティア活動）を行ってもらうことで、学びの定着化するように働きかけた。 また、活動後にふりかえる時間などをとったり、家庭からの声をフィードバックとして各ボランティアに伝えることで、自分自身のアクションとしてどのようなことが可能かを考えてもらう投げかけを行うことで、どのような成果があったかを実感してもらえるような働きかけを行った。 また、参加者には継続してボランティア情報提供などを行っている。</p> |
| <p>3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）</p> <p>「困窮家庭の思い出の方針がとても共感できて、本番頑張りたいなと思いました」といったように、意義をしっかりと理解してボランティアに取り組むことができた。 また絵本の選書会やカード作成会などでは、対面で家庭にあった活動ではなかったものの、「様々な家庭の状況を知ることができた」「私たちがつくったものが子どもたちへ届くと思うと、嬉しい気持ちと大切に丁寧に作るという気持ちが増しました。間接的になるけれど、手伝えることがあれば進んで参加したいな、と思いました」といったように、地域や家庭に対して想像力を働かせる機会となった。 またボランティア参加者からは「自分が子どもに何かやってあげる側なのに、逆に自分が元気をもらったので、誰かにやってることは自分にも返ってくるということを改めて実感しました」「想像以上の幸せがもたらされた」「また参加したい」「一枚一枚、気持ちをこめて作りましたが、大学生になったらサンタさんとしてプレゼントを渡す役をしてみたい」といった喜びや、参加に対して継続的な声も多く届いており、ボランティアの本来の意義を実感し、継続性に期待ができる声が多くあがった。</p> |
| <p>4. 今後の課題と展望</p> <p>コロナ禍のなかでボランティアは主催者、参加者、関係者にとってなかなか活動がしづらい一年だった。 参加者の中には「参加できるボランティア活動がなくなった」というような声があがり、コロナの影響を受ける現在だからこそその社会参画の機会の需要を感じる声もあがっていた。しかし一方で、参画者を募るなかでも「コロナの影響を受けるからこそ（風評被害もふくめ）参加をすることに対する不安」をあげる声も多く、実際にクリスマス活動に関してはボランティア数の減少もみられた。（キャンセルも例年より多かった） 現在、支援を必要とする家庭は増えつつあり、ボランティア含め、大人が子どもたちのために働きかける機運は高めていかなければならないと考えるが、すべての人が安心して活動できるようにするため、やる意味を常に確認しながら活動の安全性を高めることや、活動の幅を広げていく必要があると考える。</p> |

講習会の様子

(様式第8号)



カードづくり



選書会

